

上越 桑ノ木山 ～ ネコブ山（雪山登山） 報告

【日程】2016 年 3 月 26 日（土）～ 27 日（日）

【メンバー】 CL 柘植秀樹、SL 吉川りつ子 富樫富久美 大木裕見子 小俣順子
石橋きよみ 安岡敏子 澤田路子（記録）

【天候】3/26 晴れ 3/27 晴れ

【行程】

3/26(土) 8:30 三国川ダム駐車場－10:30 十字峡－11:00 水管脇階段上－13:50 (1027m)－
14:45 幕営地 (1244m)

ネコブ山は雑誌「岳人」に特選マイナー12名山のひとつとして紹介されている。私にとってはこの時期しか手が届かない山として行ってみたかった魅力的な山だ。

目的地のダム周辺まで来てから道を迷って「えっ 通行止め？ここから歩くの？」という一幕もあったが、無事予定の駐車場に到着。荷分けと身支度の後、通行止めゲートの脇をすり抜け、いよいよしゃくなげ湖の右岸に添って1間半程度の車道歩きである。湖面にはたくさんの水鳥が漂い、吹き上げる風は水温む春という感じ。周りの山々を眺めながら鳥のさえずりをバックに、おもいおもいに弾むおしゃべりのせいか、重荷の割にこの道路歩きが苦にならない。われわれが歩く右岸は道路の雪解けもはじまっていたが、反対の左岸はトンネル出口もデブリだらけで道にも雪がつまり、かなり歩きにくそうに見える。



しゃくなげ湖畔の風景



車道の行く先に白銀の山々

途中道をまちがえてキャンプ場に入り込んでしまったり、入山連絡忘れを思い出して、圏外になるぎりぎりセーフで大事に至らなかったりとハプニングもありつつ、十字峡トンネルをぬけて水管脇の階段下に到着する頃にはひと汗かく。遠くでみるとちょっとうんざりと思えた階段も意外と急ではなく、雪もほとんど残ってなくてほっと胸をなでおろす。この階段に雪が半端に残っていたり凍っていたらかなり厄介だったろう。

ちょっと息切れしつつ階段を登りきった所でま近に阿寺山のお出迎えの中一息入れ、すぐにあらわれる岩場では念のためロープを出してもらってごぼうで通過する。初めの一步の足が届き難く濡れている



といやらしい。ここからアイゼンを着けていよいよ樹林帯のやせたヤブ尾根に入る。足元は腐った雪、泥、根っこのミックス状態で、結構面倒くさい。そんな中でもいわうちのつややかな葉が雪どけの地面にひょっこり顔を出し、つかんだ枝をふと見あげるとマンサクのかわいい花がほほ笑み、春のきざしに心が和む。



見晴らしのいい所に出て1本。阿寺山、中の岳、丹後山、五龍岳、大水上山、下津川山、そして振り返ると八海山などなど教えてもらう一方だが、魚沼最深部、上越国境稜線の山並深く分け入っている実感だけはずしんと湧いて、この先の眺望にさらに期待が膨らむ。



10 年以上前の残雪期、この十字峠を起点に丹後山から巻機山まで縦走したことを思い出した。当然だが、もう少し若くて元気だったっけ。

さて樹林帯が終わり、いよいよというかやっと待ち望んだ快適な残雪の尾根歩きが始まる。目にした記録がこの樹林帯通過をあっさり触れているだけだったので、こう長いとは思わなかった。天気にも恵まれ、どこまでも大展望を我が物にしながら広大な雪稜を歩くのは最高の気分である。今日のものと思われる先行パーティーのトレースをたどって行けるのも有り難い。とはいえどうやら昨日 2~30 センチの雪が降ったようで、トップはワカンの装着を迷う状態だったようだ。8 人もいるとトップとラストの雪面状態の差は大きい。交代もせずトップを行ってくれた吉川 SL に感謝である。

1200m あたりから広い雪原の稜線となり、幕営地を探しながら、1244m 地点に国境稜線の大パノラマを一望する絶好の幕営適地があり、本日はここまでとのリーダーの決定に「やったー！」と声が出る。



時間はまだ15時。整地しテントを設営、トイレも作ってあとはテントの中で水を作りつつ、おもいおもいにティータイム、アルコールタイムをおしゃべりとともに楽しみ、ゆったりと時が流れる。今回はリーダーが男性1人であと7人は全員女性というハーレム？構成。食事時には多勢に無勢で何かとリーダーがいじられることで盛り上がるが、当のリーダーは意に介せず日本酒を一人美味しそうにぐびぐび。そしてそれぞれザックから缶ビールやらワインボトルやら手作りおつまみが続々出てきて、ちば山女性陣の担ぎ力には頭が下がる。

日没近くには山並が夕日に輝き、夜になると明日の好天を約束してくれるような月明かりは雪原を見事に照らし、幻想的な世界の中での御花つみはこの幕場のロケーションならではの贅沢だ。

3/27(日) 6:00 幕営地ー7:00 桑ノ木山ー9:10 ネコブ山ー 11:30 幕営地 12:10ー

13:30 ヤブ樹林帯ー14:40 岩場上一5:00 階段下(十字峡)ー16:30 駐車場

4:00 起床、明るくなる5:30 出発予定が何だかんだで6:00になる。昨日とちがって空身なので気分はルンルン。本日も風もなく温かい。凍ってもいけないし腐ってもいけない歩きやすい雪の状態、アイゼンやワカンの装着も個人に任され、それぞれの判断でいろいろな足元でスタートする。やや雲はかかっているが雪原の稜線歩きは気持ちよく、手前の桑の木山や目的のネコブ山への真っ白いゆったりとのびやかな稜線のうねりが美しい。歩きはじめの右斜面は優しいブナ林になっていて、例年より雪は少ないのだが、ところどころの雪庇や雪堤が、気温の上昇でゆるみはじめている。歩きだして間もなく雲間から一瞬昇り始めた朝日が輝く。やがてどこが山頂？と思ってしまうようなだだっ広い桑の木山の山頂らしきところで一本。遠くネコブ山頂に向かう稜線に、トレースでお世話になった先行パーティーの4人が豆粒のように見える。気温が上がってきて日当たりと風の通り道との寒暖の差に、脱いだり着たり衣類調整が忙しい。



1647mあたりで一本とっていると、山頂を踏んで下りてくる例の4人パーティーとすれちがう。男女2人ずつの若者パーティー。ラッセルのお礼を言うと、さわやかな笑顔で「いえいえ」と軽やかに立ち去っていく。若さがまぶしい！ちょっと早く出たとはいえ、ラッセルしながら桑の木山の手前の幕営地まで行けるのはえらいものだ。



ネコブ山の登りに入る



左から八海山、越後駒ヶ岳、中ノ岳



越後十字峡周辺の山々



ネコブ山の山頂を目指して最後の登り

その先山頂まであと一息という所で凍った急斜面のトラバースがあり、アイゼン無し組もここでアイゼン装着。石橋さんを先頭に順次山頂突起の「コブ」に到着する。



山頂の「コブ」に続々と登りつく



憧れのネコブ山の山頂

ネコブ山の山頂は長くいられないような強風で、集合写真をとってそそくさとりはじめる。途中振り返るとあらためて眺めるネコブ山はほんとに姿がいい。



ネコブ山から望む巻機山方面



帰路から望む八海山

幕営地までは、目の前の小ピークを越えれば今度こそと何度も騙され、懐かしいテントが見えるまで結構長く感じる。テントを撤収し、少しゆるんだ雪稜をどんどん下って、最後のヤブ尾根下り。雪がとけた分登りより厄介な状態になっていて、後ろ向きになったり、ストックがヤブにひっかかったり、滑らないよう緊張する箇所も多くて軽くなったはずの荷にふられて気のせいか重く感じたのは私だけ？でも心配だった岩場の下降はすっかり乾いていて、ロープのお世話になったとはいえ、みんなが心配したより容易に下りられてほっとする。

やれやれという気分を引き締めて気を抜かずに急階段を下り、トンネル入り口で休憩して腹ごしらえをするメンバーの表情には安ど感が漂う。つつい終わったような気分になって惰性で車道をもくもくと歩いているうちに、ほぼ予定通りの時間に駐車場に到着。

お天気と先行トレースに恵まれたために、満足度も充実度もなかなかの山行となった。

その後帰りの時間を気にしながらも、五十沢温泉で速攻汗を流し、以前にも立ち寄った中野屋でおそばを食べて帰葉。ひどい渋滞もなく何とか誰も事務所泊まりになることはない時間に帰れたようだ。

そして最後にこの特選マイナーな山12選の選者の一人である高桑信一氏の説得力あるネコブ評の一部を紹介したい。

「ネコブを擁する長大な支稜を銅倉尾根と呼ぶ。十字峽を起点とする野太いこの尾根の真価は雪に覆われた季節にこそあるだろう。……端然と佇む下津川山を女王とするなら、さしずめネコブは捧げて悔いなき巨下の風格を漂わせている」

個人的なことだが、膝の故障も完全ではない中、リーダー、メンバーはじめ天気、トレースなどいろいろな条件に恵まれて何とかこの“あこがれ”のネコブ山山行に参加できたことを感謝したい。

澤田路子（記録）